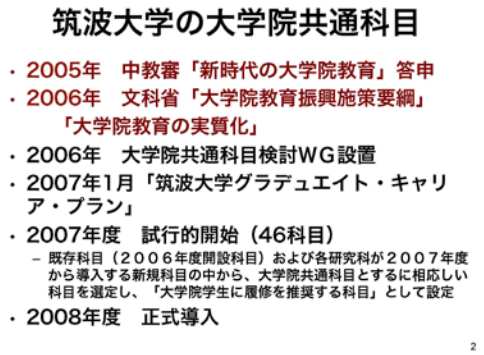
筑波大学大学院共通科目の取組み～検討開始からの 5 年間～

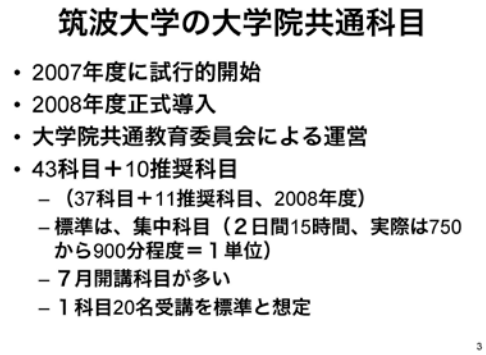
小林信一[1]

1. 筑波大学の大学院共通科目　（スライド 1,2）

配布資料の「大学院共通科目の取組み」の資料に添って話を進めていきます。最初の方は事実関係を中心に書いています。2005（平成 17）年に中教審の答申「新時代の大学院教育」が出され、2006（平成 18）年に「大学院教育振興施策要綱」の中で「大学院教育の実施化」が打ち出されました。それから筑波大学では大学院共通科目が始まったという、先ほどの白岩先生の話と同じです

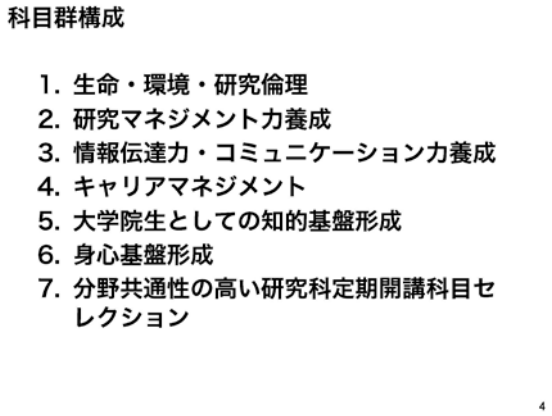


スライド 1　**筑波大学の大学院共通科目①**



スライド 2　**筑波大学の大学院共通科目②**

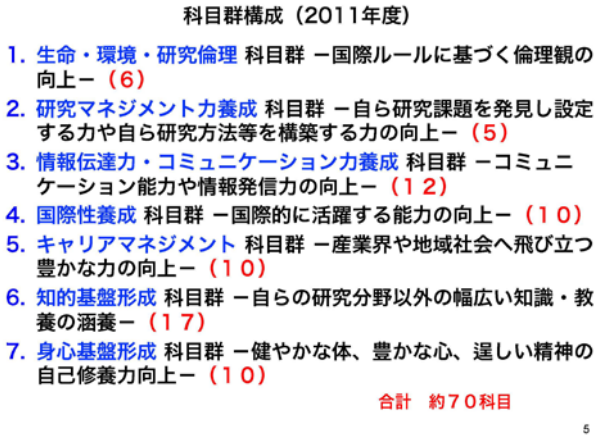
科目群の構成（スライド 3）は当初 7 つの科目群で、1.生命・環境・研究倫理、2.研究マネジメント力養成、3.情報伝達力・コミュニケーション力養成、4.キャリアマネジメント、5.大学院生としての知的基盤形成、6.心身基盤形成、7.分野共通性の高い研究科定期開講科目セレクション、でした。



スライド 3　**科目群構成**

[1]筑波大学大学院共通科目委員会副委員長

2011（平成 23）年度から科目群の名称を若干変更しています（スライド 4）。国際性を関連の科目が増えてきたので独立させましたが、それ以外は大きい変化はありません。実は、2011 年 1 月の「グローバル社会の大学院教育」（答申）でもほぼ同じ項目を取り上げています。筑波大学がこれまでやってきたことは、大学院部会審議会の新しい答申が取り上げたこととを先取りしていたものだったということがよくわかります。



スライド 4　科目群構成(2100 年度)

筑波大学は大学院共通科目の開講日時を把握してもらうために、教育推進部が大学院共通科目カレンダー（スライド 5）を随時更新してくれています。カレンダーをみると、土曜日に開講されるものも結構あり、日曜日に開講される科目もあります。授業時間の工夫をかなりしているところです。先ほどありましたが、平日だと研究室を抜けられないという学生さんもいるので、そういう工夫は当初から行われています。

スライド 5　**大学院共通科目カレンダー**

2.　大学院共通科目開設状況および受講状況

開設科目数（年度別）（スライド 6）を見ると、コミュニケーション関係の科目が充実していること、新しく分類された国際性に関するものが充実してきていることがわかります。知的基盤形成のところもかなり厚くなってきている感じです。2012（平成 24）年度はさらに科目が増える見通しです。

大学院共通科目開設科目数（年度別）

年度	平成２０ 2008 年度	平成２１ 2009 年度	平成２２ 2010 年度	平成２３ 2011 年度
生命・環境・研究倫理	6	6	6	6
研究マネジメント力	5	5	5	5
情報伝達力・コミュニケーション力	8	9	10	12
国際性	–	–	–	9
キャリアマネジメント	5	5	6	11
知的基盤形成	10	10	20	17
身心基盤形成	3	8	8	10
計	37	43	55	70

7

スライド 6　**大学院共通科目開設科目数（年度別）**

履修状況（年度別）（スライド 7）については、申請しても時間の関係で受けられない学生がいるので、実際受講する人は少ない感じです。今年はのべ 1,300 人弱ですが、学生の中には受講しても単位は要らないという人もいるので実際にはもう少し多い感じがします。

大学院共通科目開設科目数と履修状況（年度別）

年度	科目数	履修申請者数（人）	受講者実数（人）
平成１９（２００７）年度	46	860	602
平成２０（２００８）年度	37	1，406	870
平成２１（２００９）年度	43	1，819	1，048
平成２２（２０１０）年度	55	1，850	1，209
平成２３（２０１１）年度	70	–	–

8

スライド 7　**大学院共通科目開設科目数と履修状況（年度別）**

2010（平成 22）年度研究科別受講者数（のべ）（スライド 8）を見ると、文科系受講者の方が少なくて、数物系、工学系、生命系等々が多くなるという傾向が見られます。九州大学と同じ傾

向です。科目はかなり幅広くばらついています。

研究科別受講者数（のべ）平成２２年度

	生命・環境・研究倫理	研究マネジメント力養成	情報伝達力・コミュニケーション力養成	キャリアマネジメント	大学院生としての知的基盤形成	身心基盤形成	合計
教育研究科	0	0	7	10	5	10	32
人文社会科学研究科	1	0	11	8	20	17	57
数理物質科学研究科	10	28	18	12	122	25	215
システム情報工学研究科	59	39	52	26	68	98	342
生命環境科学研究科	59	32	66	42	90	43	332
人間総合科学研究科	27	6	33	26	44	91	227
図書館情報メディア研究科	0	0	1	1	1	1	4
合計	156	105	188	125	350	285	1，209

9

スライド 8　**研究科別受講者数(のべ)平成 22 年度**

受講者数、受講科目数、受講科目数別受講者（スライド 9､10）を見て興味深いのは、7 割位の学生は 1 科目だけを取り、2 割位の学生は 2 科目取ります。ただし、3 年間の累計の数字を見ると、1 科目で終わる人は全体の 6 割位、2 割位の人は 2 科目までいき、1 割は 3 科目までいきます。大阪大学や九州大学に比べると科目数は非常に少ないのですが、それでも 2 科目 3 科目取る学生が増えているという傾向があります。

受講者数、受講科目数

年度	のべ受講者数	正味の受講者数	平均受講科目数
平成20（2008）年度	866	565	1．53
平成21（2009）年度	1，045	712	1．47
平成22（2010）年度	1，209	765	1．58
累計	3，120	1，826	1．71

10

スライド 9　**受講者数、受講科目数**

受講科目数別受講者

年度	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目以上
平成20（2008）	393（69．6）	107（18．9）	33（5．8）	19（3．4）	13（2．3）
平成21（2009）	491（69．0）	143（20．1）	58（8．1）	12（1．7）	8（1．1）
平成22（2010）	500（65．4）	158（20．7）	63（8．2）	30（3．9）	14（1．8）
累計（3年間の履修科目数）	1，117（61．2）	397（21．7）	174（9．5）	79（4．3）	59（3．2）

11

スライド 10　**受講科目数別受講者**

3.　まとめ＜私見＞

筑波大学大学院共通科目の特色を私なりにまとめると、

- 外部講師の参加、多様な分野の大学院生、留学生、社会人学生の参加を通じて、多面的な交流ができる場を提供している
- 土曜日、休業期間などに開講し、大学院生が参加しやすくしている
- 体系的履修、最低履修単位数などの履修要件がないので、学生にとっては受講しやすいが、逆に履修を促進する条件もない（学生の自発性に委ねている）
- ほとんどの科目は、大学院共通科目として新規に開設された

- 筑波大学が体育、芸術、図書館情報学などユニークな分野を有する強みを活かして、それぞれの立場から大学院生のスキルアップを目指した多彩な科目を提供している
- 筑波研究学園都市に立地しているメリット、東京とのアクセスのよさなどを生かし、近隣の研究機関や在京の機関と協力して実施する科目を提供している

先ほどのINTELやJAPICのように筑波の学園都市内外のいろいろな機関の協力等もあって、非常に多彩な外部講師が参加してくださっています。これはかなりユニークであると思います。また、共通でやるのでいろいろな専門の学生が参加する、学生同士も交流できるということで、非常に良い場を提供できていると思います。通常の専門科目とはそこが違うところだと思います。筑波大学には体育、芸術、図書館情報学などあり、そのような意味でも多様性がある感じがします。

一方で、今後検討すべきこととしては、

- 人文社会科学系学生の履修が少ない
- もともと現場の教員のボランタリーな活動が全学的な活動へと草の根的に展開した
  - 各専攻には履修を認めてもらったが、修了要件に含めるか必須単位とするかは任意
  - 結果的に、特段の抵抗はなく実施し、学生に浸透
  - 一方では、体系性にかける面も（科目の体系、履修の体系）

最低履修単位数などの履修要件がない専攻がほとんどで、学生にとっては受講しやすいが、インセンティブもないという側面もある。ですから、学びたい学生はどんどん学ぶが、学びたくない学生は最低限、あるいはゼロということになると思います。

また、白岩先生の話にもありましたように、もともと現場の教員がボランタリーな感じで活動してきています。大阪大学、九州大学と違い予算がなくやっている。そのような意味では非常に安上がりで熱意だけでやっているようなところもあります。一方で大阪大学や九州大学のような体系性に欠ける部分もあるかもしれません。

大学院共通科目の効果としては、

- 汎用的な研究手法、国際性の習得
- 異分野間のコミュニケーション、研究者以外のステークホルダーとのコミュニケーション等の能力養成
- プロジェクト・マネジメントなどの経験やノウハウの習得
- 社会人学生、留学生、他大学出身者の増加への対応
- キャリアパスの多様化への対応
- 多様な大学院生の相互的な知的交流の機会

大学院共通科目の副次的な効果として、いろいろな科目が分野間のコミュニケーションの良いトレーニングになっていることがあります。要するにコミュニケーション科目でなくてもいろいろな分野の人とコミュニケーションをする機会を提供している。あとは、いろいろなトレーニン

グをしてプロジェクト･マネジメントの経験やノウハウを修得することも場合によっては可能になっている。社会人学生、留学生、他大学出身者がどんどん増えているわけですが、その人たちが入口で一緒になる場としても活用できている。そう意味で大学院生の交流の機会にもなっているということです。

4. 今後の課題

- 草の根的で外部資金も利用していない点では、持続可能性が高いだろう
- 単位認定方式と体系化（履修証明等）の検討
- さらなる周知　―教員へ、学生へ
- 大学院改革の先導役として

今後必要となるとすれば、これをどのように体系化していくのか。例えば大阪大学のように副プログラムや certificate（履修証明）的なもの、あるいはマイナー（副専攻）的なものにしていくことを考える必要があるかもしれません。最大の問題は九州大学と同じで、どうやってもっともっと学内で知ってもらうかという問題があります。もう一つは、こういう場は専攻の枠にとらわれず、大学院改革をやりやすいので、そういう役割をさらに担っていかなければならないと思います。